

# 大杉谷国有林からの手紙

## 44通目 ~冬の大杉谷について~

暖冬の影響で例年よりも温暖だった大杉谷も最近になりやっと積雪があり、冬らしさを見せてくれるようになりました。

今回の大杉谷からの手紙は、雪の大杉谷の風景についてご紹介します。

### (1) 一面の雪化粧

大杉谷の林道を奥に向かって走行していると、ちらほら林道に雪が見え始め、千尋峠のトンネルを抜けると、そこからは一面雪化粧に早変わりした景色となりました。43通目でご紹介した、千尋の国有林境の標高約800mから1700mまで高低差900mに山々が広がり、冬の大杉谷はがらっとその姿を変えるところが魅力の一つです。写真1は、標高が1000mあたりとなり、ちょうど雨と雪の境目なのかもしれません。

さらに奥の大台ヶ原に続く登山道では4月の中旬にも雪が多く残り、大杉谷国有林の最高峰日出ヶ岳1695m付近では霧氷が大きなブナの木々に着き、幻想的な冬の風景を見せてくれます。



写真1 トンネルを過ぎると一面の雪化粧です



写真2 霜柱と氷柱

### (2) 霜柱と氷柱

先ほどとは別の場所で霜柱と氷柱が同時に見れる場所を見つけました。標高の高い大杉谷ではいたるところで見つける事ができます。

両方ともきれいなのですが、霜柱がくせ者で、霜柱によって石が押し上げられ、雪解けの時期に水になって溶けて、隙間ができた石は林道にたくさん転げ落ち、土石が道をふさいでいる事が多くあります。多いときには20回ほど車から降りて石を拾ったり、土砂をスコップで取らないといけないほどで、目的地に着くにも大変な労力と手間がかかります。春先の大杉谷で頭の痛い問題です。

### (3) 動物達の通り道

雪が積もると、何気なく通っていた場所も様変わりし、別の一面を見せてくれることもあります。

写真3は林道から尾根を見た写真ですが、たくさんの足跡が尾根に向かっていきます。写真ではわかりにくいかもしれませんが、勾配は30度以上の結構な急斜面なので人間だと普通に登るのも大変です。

しかし、雪の積もる中を彼らの足跡は難なく真っ直ぐ登っていきます。なぜこの道が動物達に人気があるのかよく分かりません。何処かへの近道なのでしょうか？謎が深まりますね。



写真3 尾根へと足跡が続いています

次の写真4は写真3の足跡を拡大したものを載せてみました。右の足跡は三角形の形状からニホンジカかイノシシでしょうか？足跡については詳しくないことから、見たときに判定はできませんでした。

ニホンジカについては環境省及び当署が行ったGPSでの行動特性調査（GPSテレメトリー調査）を行い、冬の間は標高の低い麓の山に降りて越冬している結果が出ています。また、イノシシについて調べて見ると、こちらも冬眠せず別の場所へ移動するとの事なので、冬眠しないどちらかで

間違いはなさそうです。4月、5月になり少し暖かくなつてからまた大杉谷に戻って来るのでしょうか。ニホンジカもイノシシも大杉谷の厳しい寒さには耐えられないようです。



写真4 足跡の拡大版



足跡      イノシシ      ニホンジカ